

特 定 事 業 者 排 出 量 削 減 計 画 書 (新規)・変更)

住所（法人にあっては、主たる事務所の所在地）	京都市伏見区横大路千両松町78															
氏名（法人にあっては、名称及び代表者の氏名）	代表取締役社長 喜多川 光矢															
特定事業者の主たる業種	産業廃棄物処理業															
該当する事業者要件	<input checked="" type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第1号該当事業者（大規模エネルギー使用事業者（原油に換算して1,500キロリットル以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第2号及び第3号該当事業者（大規模運送事業者（トラック又はバス100台以上／タクシー150台以上／鉄道車両150両以上）） <input type="checkbox"/> 京都市地球温暖化対策条例施行規則第4条第4号該当事業者（その他の温室効果ガスの大規模排出事業者（二酸化炭素に換算して3,000トン以上））															
計画期間	平成20年 4月～平成23年 3月															
基本方針	地域社会の環境保護を第一に考え「地球をきれいに」をモットーに、産業廃棄物を安全かつ適正な処理をする中間処理施設として、その減量化・無害化を実現することにより、人が安心して暮らせる豊かな環境づくりを目指す。															
推進体制	幹部会並びにISO14000推進体制に準ずる。 <table border="1"> <tr> <td>環境マネジメントシステム名称</td> <td colspan="3">ISO14001</td> </tr> <tr> <td>適用範囲</td> <td colspan="3">クリーンセンター、RPFセンター</td> </tr> <tr> <td>取得年月日</td> <td colspan="3">2005.2.7</td> </tr> </table>				環境マネジメントシステム名称	ISO14001			適用範囲	クリーンセンター、RPFセンター			取得年月日	2005.2.7		
環境マネジメントシステム名称	ISO14001															
適用範囲	クリーンセンター、RPFセンター															
取得年月日	2005.2.7															
年度ごとの具体的な取組及び措置の計画	年度	設備、対象、工程等	計画内容													
	20	ボイラー	省エネ設備への更新検討を実施する。													
温室効果ガスの排出量等	排出区分		基準年度（実績） (19)年度 (二酸化炭素換算)	目標年度（計画） (22)年度 (二酸化炭素換算)												
	A 事業所等排出区分		3,884.3 t	3,884.3 t	0.0 %											
	B 輸送車両排出区分		t	t	%											
	C その他排出区分		12,768.4 t	12,768.4 t	0.0 %											
	排出合計		16,652.7 t	16,652.7 t	0.0 %											
	目標設定の考え方															
原単位当たりの温室効果ガス排出量等	用途区分	原単位の指標	基準年度（実績）	目標年度（計画）	増減率（計画）											
	アスコンセンター	二酸化炭素換算 (生産量)	0.024 t-CO2/ t	0.024 t-CO2/ t	0.0 %											
	クリーンセンター	二酸化炭素換算 (処理量)	2.655 t-CO2/ t	2.655 t-CO2/ t	0.0 %											
	RPFセンター	二酸化炭素換算 (生産量)	0.048 t-CO2/ t	0.048 t-CO2/ t	0.0 %											
	原単位の指標及び計画数値設定の考え方															
	対策等の区分		目標年度（計画）													
地球温暖化対策貢献量	取組量等		(二酸化炭素換算)													
	森林の保全及び整備		(整備面積)	ha	(吸収量)											
	市内産の木材の利用		(利用量)	m ³	(削減量)											
	自然エネルギーを利用した電力又は熱の供給		(発電量) (熱供給量)	kwh GJ	(削減量)											
	グリーン電力の購入		(購入量)	kwh	(削減量)											
	削減量等合計				t											
地球温暖化対策に資する社会貢献活動																
特記事項	• JICA研修として、中米諸国及びアジア諸国、ドミニカ共和国などの都市部の生活廃棄物処理に係わる技術系行政官を養成することにより、関係国の生活環境の改善に資することを取り組んでいる。 • 本社／アスコンセンターにおいては、H18に省エネ改修を実施し、平成17年度比エネルギー使用量△9.1%を達成。 • ボランティア組織「千両松エコ協議会」を設立し、地域との交流や情報交換、定期的な地域の環境美化等を通じて、地域社会に貢献する活動を続けている。															

注 1 該当する□には、レ印を記入してください。

2 「基準年度」とは計画期間の前年度を、「目標年度」とは計画期間の最終年度をいいます。

3 「事業所等排出区分」とは本市の区域内の事業所等の事業活動のためのエネルギーの使用に伴い発生する温室効果ガスを、「輸送車両排出区分」とは自動車運送事業者については使用の本拠の位置を本市の区域内とする車両の排出する温室効果ガスを、鉄道事業者については保有する貨物車両又は旅客車両の排出する温室効果ガスを、「その他排出区分」とは上記以外の本市の区域内における事業所等の事業活動に伴い発生する温室効果ガスをいいます。

4 「原単位当たりの温室効果ガス排出量等」の「用途区分」には、○○工場、事務所などの用途を記入してください。「原単位の指標」には、分子の「二酸化炭素換算」の下に分母となる指標（製品出荷額、延床面積、走行距離等）を記入してください。

5 「地球温暖化対策に資する社会貢献活動」には、省エネ製品開発など他の者の温室効果ガス排出削減への貢献や地域における環境教育の実践活動など、地球温暖化対策や環境負荷の低減につながる活動を記入してください。

6 「特記事項」には、1990年を基準とした排出量の対比や、温室効果ガス排出量の算定に当たって独自の係数を使用した場合など、説明を要する事項について記入してください。